



馬 耳 東 風

新緑のブナ林のみずみずしい広葉の照り映えに歩を休めて思わず深呼吸をする。リュックと背に隙間ができて汗ばんだ肌に心地よい風が入った。思いっきり肺に吸い込む空気のなんと芳しいことか。ハルゼミだろうか一斉に地鳴きのなか、ホトトギスの声が突然聞こえてきた。耳を澄ますとウグイスが鳴き、コジュケイとカッコウが鳴いていた。朝の標高1,200 mの周りを見渡しても人影はほとんど見かけない。一人旅を思いつき一番列車に飛びのって、新幹線を乗り継ぎ1時間以上バスに揺られて着いた遊歩道でのことだ。バスで腹ごしらえにおにぎりを食べた。まもなく梅雨入りするだろう時期に、ほぼ4時間近くかけて着いた信州の戸隠だ。天手力男命あまのたけからおのぬことの投げた天岩戸が落ちたと伝わる神話の地である。「熊注意」の立て看板がわかりやすく目立っている。かつて山岳修験者を集めた信仰の地だ。片手に駅で入手した「戸隠古道」の絵地図がある。見ごたえのする山の姿が神々しく背景に輝く。大きな望遠レンズを携えた探鳥写真家の姿が見えだした。湿地帯や池があり水禽類の姿がなんともうれしい存在だ。随所にライブカメラも設置されており、瞬時に定時画像が映し出されて状況の把握が可能だ。五つある戸隠神社のひとつ奥社は、大きな杉木立の中をまっすぐな参道をかなり歩く。途中の朱塗りの随神門は、草ぶき屋根で苔むし、両袖の弓矢を持つ隨身像が重厚さを醸し出している。長い真っ直ぐな砂利の参道は、一休みするのに十分な雰囲気である。金剛杖と法螺貝の山岳修験者が出てきそうな幽玄の世界だ。

東京都青梅市の御嶽山（929 m）に鎮座する武蔵御嶽神社は、日本武尊東征の折神狼に山中の難を救われた大口真神おおくちまがみを崇め、犬の神様として愛犬家の注目を集めている。ケーブルカーを使った参拝者が多い。犬用のお守りは独特の人気がある。山頂に暮らす御師集落はこの地で修業をしていた山伏が住み着いたのだという。「武蔵御嶽本暦」の裏表紙には御師名が書かれ、山頂の御師集落は御師たちが20を超える宿坊を持つ。関東地方の信仰を集め講泊りの参拝者も多い。最近では外国人も増えた。正月行事の太占祭は、潔斎けつさいした神職が火鑽具おしひきりぐでおこした斎火さいかで波波迦ははか（ウワミズザクラ）の樹皮を炭火にしたもので、シカの肩甲骨を三種神宝祝詞のりとの三度奏上する間炙りあぶひび、鱒の長さを25本の紙縶こよりで測りそれぞれの作物の吉凶を占い一覧符にする。古事記に記されるこの太占は、秘儀で今も公開されていない。秘仏の蔵王権現像ざおうこんげんざうは、神仏習合でめったに開帳されずレプリカが展示されている。徳川家康が、江戸の守り神として保護したことで知られる。山頂からの展望は武蔵野台地を見事にとらえ東京が丸見えだ。

石清水八幡宮が鎮座する男山（143 m）は、登山ケーブルや展望台から比叡の山々を背にした京都の全貌を俯瞰できる。今は緑地保全された山の神が京都を守る。日本書紀の「皇后從新羅還之十二月戊戌朔辛亥生誉田天皇於筑紫」を参拝者にわかりやすく参道に板書する様は、さすがに国家鎮護の大神としての地位と知恵の深さに感銘を受けた。日本人の心を揺さぶる精神性をのぞき見たようだ。（柏）